

様式 C-7-1

令和2年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		東京外国語大学	機関番号	12603
研究代表者	部局	大学院総合国際学研究院		
	職	教授		
	氏名	川口 裕司		

1. 研究種目名 基盤研究(B)(一般) 2. 課題番号 20H01279

3. 研究課題名 言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析

4. 研究期間 令和2年度～令和5年度 5. 領域番号・区分 -

## 6. 研究実績の概要

2020年度はコロナ感染症の下、社会活動が中断され停滞した。必然的に本科研も影響を受け、全体として当初の研究を行うことができなかった。とくにマルチタスク調査は対面による実施が不可能となった。  
フランス語班の秋廣、近藤、杉山、Deteylは、学習者コーパス構築のため、フランス留学から帰国した学生と留学予定の学生7名にZoomによるマルチタスク調査を行った。研究としては、統語面では、談話標識、(非)流暢性、対照中間言語について書かれた先行文献、とくに用例基盤による構文学習に関して重点的に研究した。音声面では、日本の教科書に出てくるリエゾンと母語話者のリエゾンにおいて、どのような規範意識の違いが見られるのかを分析した。語彙面では、音読タスクの定量評価に向けて、流暢さを決定する要因を分析し、結果として母音長の分散と流暢さの印象評価の間に相関関係があることがわかった。  
日本語班の阿部、川口は、先行科で収集されたマルチタスク調査のデータをコーパス化し、今後の作文タスクおよび音声タスクを分析するための準備と先行文献の調査を行った。トルコ語班の川口は、トルコに留学経験のある学生・卒業生たち計8名にZoomによるマルチタスク調査を実施し、データのコーパス化を行った。研究面では日本人学習者の/r/音について分析した。石川は、コーパス解析の助言を行うための基礎準備として、学習者コーパスの構築手法を検討し、学習者コーパスの新しい分析手法の開発・比較を実施した。矢頭は、ケベック・フランス語憲章を社会言語学的に分析した。梅野は、コーパスデータの整形と変換を担当し、学習者言語サイトの管理を行った。また各社AIによる文字化の精度を調査した。  
2020年度は、対面による会議等を開催することができなかったため、ZOOMを利用して、フランスおよび国内の研究者に研究報告を行ってもらった。

## 7. キーワード

対照中間言語分析 言語変異 学習者言語

## 8. 現在までの進捗状況

区分 (3) やや遅れている。

## 理由

2020年度は、コロナ禍の状況下で、社会活動が様々な施策によって中断され停滞した。その結果、必然的に本科研も影響を受け、全体として当初通りの研究を行うことができなかった。とくに本研究では、自然な環境下で学習者の自然談話を収集したり、コントロール下で学習者の作文を収集するため、マルチタスク調査を対面で実施することが望まれた。残念ながらそうした調査形式は不可能になってしまった。

3版

## 9. 今後の研究の推進方策

上述のように2020年度はマルチタスク調査を対面で実施することが不可能であった。そのため急速オンラインで行うことを余儀なくされた。2021年度にはこうした点が改善されることを期待するが、実施側からできることは多くないため、オンライン調査の継続も視野にいれて研究を推進する。

## 10. 研究発表（令和2年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著論文 3件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hisae Akihiro	4. 巻 220
2. 論文標題 L'emploi discursif de apres, etude contrastive avec ato en japonais. Extension contextuelle et pragmaticalisation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Langages	6. 最初と最後の頁 65, 84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Detey Sylvain, Fontan L., Le Coz, M., Jmel, S	4. 巻 125
2. 論文標題 Computer-assisted assessment of phonetic fluency in a second language: a longitudinal study of Japanese learners of French	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Speech Communication	6. 最初と最後の頁 69, 79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 杉山香織	4. 巻 23
2. 論文標題 リーディングにおける語彙知識の予測モデルとその検証—フランス語圏への留学経験による語彙知識の変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 20, 37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Kawaguchi	4. 巻 1
2. 論文標題 Standardization and distance -Case of Linguistic Atlas of Champagne and Brie (ALCB)-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of Methods XVI, Papers from the sixteenth international conference on Methods in Dialectology	6. 最初と最後の頁 269, 276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3726/b17102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mito Matsuzawa, Yuji Kawaguchi	4. 巻 46
2. 論文標題 Passe compose and imparfait in Japanese learners of French - With particular consideration of the aspect hypothesis -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Flambeau	6. 最初と最後の頁 61, 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 阿部 新, 磯村一弘, 林 良子
2. 発表標題 世界各地の日本語音声指導の実態 2013年から2017年の調査データによる分析
3. 学会等名 日本音声学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋廣尚恵
2. 発表標題 Du coupの用法について 論理的意味の非特定化と談話機能的意味の広がり
3. 学会等名 日本フランス語学会
4. 発表年 2020年

3版

1. 発表者名 Detey Sylvain
2. 発表標題 Teaching and language corpora: what of pronunciation? Insights from French
3. 学会等名 14th Teaching and Language Corpora conference (TaLC2020)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉山香織
2. 発表標題 リーディングにおける頻度情報を使用した未知語予測モデルの検証 - A2 レベルのフランス語学習者を対象に -
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松澤水戸, 川口裕司
2. 発表標題 フランス語中級学習者の自由談話における複合過去と半過去
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 川口裕司(監修)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 768
3. 書名 デイリー日本語・トルコ語・英語辞典	

1. 著者名 石川慎一郎, 長谷部陽一郎, 住吉誠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 273
3. 書名 コーパス研究の展望	

1. 著者名 石川慎一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 277
3. 書名 ベーシックコーパス言語学(第2版)	

1. 著者名 矢頭典枝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アルク	5. 総ページ数 103
3. 書名 あなたの知らない世界の英語	

1. 著者名 飯野正子, 竹中豊, 矢頭典枝, 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 現代カナダを知るための60章	

11. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件(うち出願0件/うち取得0件)

【研究代表者・所属研究機関控】

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

3版

12. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

13. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

14. 備考

-